



木曾川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2017年7月9日(日) 9:30~12:00(曇)

参加者 一般:8名(うち子ども3名)

指導員:7名

テーマ 「川原で虫を探そう」

歩き出してから、芝生でたくさんのネジバナの花が咲いていました。よく見ると右巻きのもので左巻きものがあります。花をルーペで拡大して見ると、ランの花らしい形状をしています。

堤防の草に細い黄色のアメリカネナシカズラが絡まっていました。花のほか丸い形状のものが付いており、実かと思い、中を割ってみると小さなイモムシが入っていました。帰って調べてみると、マダラケシツブソウムシが作るネナシカズラツルコブフシという名の虫コブでした。

川原の草原と林の境界付近にはヒメウラナミジャノメやヒメジャノメが飛んでいましたが、カワラサイコ、カワラマツバ、カワラヨモギの生えている一画には、毎年のことですがジャノメチョウがたくさん飛んでいました。

河川敷にはウスバキトンボが群れていました。海を渡って飛来し、世代交代を繰り返しながら北上するトンボで、この辺りでは6月中旬から出現しますが、7月に入り急激に数が増えました。ほとんど止まることがなく、捕まえるのが難しいトンボですが、参加者が捕虫網を振って捕まえてくれました。体の割に翅が大きく、また腹部は華奢で、長距離飛行に適した構造となっています。腹部の先端の形状で雌雄を確認しました。

蒸し暑かったのでコースを短縮し、林の中を通過して、公園内のもくもくパラダイスの大池に向かいました。アサザやコウホネ、ガマなどの繁る池では、真っ赤なショウジョウトンボや、藍色の翅のチョウトンボなどを見ることができました。

自然体験施設には公園内で育てたカブトムシが展示されていて、参加した子どもたちが、カブトムシに触って楽しんでいました。

最後に立ち寄ったコナラの林では、ペットボトル製の蜂トラップにカブトムシが入っていましたが、樹の幹にカナブンなど樹液に集まる虫は来ていませんでした。(報告:齋竹)



(自然体験施設でカブトムシとのふれあい)



(右巻と左巻のネジバナ)



(ネナシカズラツルコブフシ)



(ジャノメチョウ)

<その他観察できたもの>

虫: シオカラトンボ、コシアキトンボ、ギンヤンマ、クロイトトンボ、モンシロチョウ、モンキチョウ、ツマグロヒョウモン、ヤマトシジミ、ウスキクロテンヒメジャク、セイヨウミツバチ、ナガゴマフカミキリ

鳥: ツバメ、ヒバリ、セグロセキレイ、キジバト、スズメ、ムクドリ、コゲラ(声)、ハシボソガラス、オオヨシキリ(声)

花: タイサンボク、ブタナ、ノアザミ、ニガナ、オオキンケイギク、アレチハナガサ、ヒメクマツツラ、コマツヨイグサ、アレチマツヨイグサ、ヤブカンゾウ、ニワゼキショウ、セッカニワゼキショウ、ネムノキ、シロツメクサ、ヘラオオバコ、オオバコ、カタバミ、ヤブミョウガ、ハンゲショウ